

拡散する言葉と届かぬ言葉



社会福祉法人 千利世会
理事長 渡邊 義也

私が初めてあさひ福祉作業所を訪れたのは、1984年か1985年の頃だったと思う。本所賀川記念館のワークキャンプとして、7日間滞在し、鶏舎づくりを主とした諸々の開拓作業を行っている。それから数回訪れ、毎年のように行くようになったのは、2000年前後のことだったように思う。児童館の仕事から、保育の仕事に移ってそう時は経っていなかったと思うからだ。

その間、私とは別に、私の子どもたちは全員、異なった形であさひ福祉作業所にお世話になってきた。特に下の3人(現在、中学生・小学生・幼稚園児となっている)に関しては、私が毎年足を運ぶようになっていたので、生まれた頃からほぼ毎年と言っていいほどお世話になっている。みんな作業所が大好きで、夏が近づくと「いつになったらあさひに行くのか?」という話題がよく出る。それと同時に、今年あさひに行ったら、これをする、という自分なりの課題を持っていて、それはかなりはっきりとした課題となっている。(鶏舎に入れるようになるとか、今年は卵をいくつとるとか、採卵箱の鶏をどかして、自分の手で卵を取るとか…。)

一方私は、日常の忙しさにかまけて、何も考えずに、あさひに行けば、いわばストレスの発散だったり、癒されることに専念したりしている。ある意味では、もう一つの自分の世界があり、そこに逃げ込んでいるととってもいい。他と比べたら、ということは意味がないかもしれないが、保育という世界もけっこう厳しい。この世界は子どもたちの未来をつくる仕事として、重要かつ明るいイメージがついてくる。しかしながら、そうもいってられないのが現状のように思える。考えようによっては、現代社会の歪みがそこに反映されている。子どもの貧困の問題しかり、虐待の問題しかりである。これらの問題は、負の連鎖として繋がっており、新たな要因を加えながら、増殖を続けている。そして、私たちの無意識の中に静かに浸透してきている。そのような社会の中で、自分の均衡を保つため、唯一私が手にしているアイテムが「あさひ福祉作業所でのワークキャンプ」なのかもしれない。

私の住む世界「保育」の現場は、今、岐路に立たされているととってもいいと思う。待機児対策を最優先事項とし、保育料の無償化や法律の改正によって経過措置期間が終わることの問題と取り残されてしまっている問題が一気に押し寄せてくる。だが、本当の問題は、そうした表向きの問題の陰に潜み、相変わらず取り残されたままになる。現場にとって光明となるのは、保育所保育指針が改訂され、保育の在り方が子どもの側に近づいてきたことだ。子ども主体が強調され、発達支援や保護者支援の項目が盛り込まれるようになってきた。ある意味でより広い視野をもって保育にあたるということであり、保育者や保育園にとって、

より多くのことを要求されるようになったといってもいい。子どもの近くにいた保育園にとってはありがたいが、運営という視点に偏っていたり、旧態依然としていたりする保育園にとっては、どうしたらよいかわからないのが現状のように思う。

さらにこの先、今は最優先事項となっている「待機児対策」が終了した後、大量の保育施設と少子化していく子どもたちの数によって、需要と供給のバランスが大きく崩れていく。そこに現れるのは淘汰されていく保育園である。国は、2000年の段階で、社会福祉法人の合併や吸収のシナリオを用意していたが、まさに恐るべしである。私たちは、そのようなところに巻き込まれたくないし、そうならないためにも、5年、10年、20年先の社会を見据えながら、今現在ここにいる子どもたちと向き合っていかなければならない。

つまりは、これからやってくる「AIの時代」を見据え、今何が必要かを考え、保育の中に盛り込んでいかなければならないのである。細かく言えば、たくさんの方が挙げられていくことと思うが、集約して言ってしまうと、子どもにとって大切なのは様々な実体験であり、多様な価値観に触れることであるように思う。

今の社会は、バーチャルの世界に支配されつつある。そして、多くの大人が情報や言葉を拡散させていくことにしか目に入っていないように思える。少なくとも今の子どもたちから見れば、大人の手には必ずスマホがあり、自分とつながるより、その機械の向こう側とつながることを優先しているように見えるだろう。そして、子どもたちは、何度「届かぬ言葉」を胸にしまわなくてはならないのだろう。だが、悲しいことに、このままではその子たちも当然のように同じことを始めるだろう。

「声にならない声を聴く」「届かぬ言葉を届けるべきところに届ける」
今までも大事であったけれど、尚更に意識していかなければならないことなのだと思う。そして、保育の現場だけでなく、社会そのものが大切にできるように思わなくてはならないのだと思う。あさひ福祉作業所、そして、多機能型施設ぶーこっこの存在は、これからも重要性を増してくるのではないかと思うところである。



親隣館 & 雲柱社

親隣館ワークキャンプ



親隣館ワーク参加者

ワークキャンプの感想

親隣館保育園園長 田中智和

2011年（平成23年）4月に親隣館保育園へ転職してからずっとワークキャンプに参加しているので今回で8回目となりました。最初のころは、にわとりに水を運んでいたのですが、3年前に全てのにわとり小屋に水が行き渡るようパイプをつなげたので、水やり作業がなくなり本当に楽になりました。ただ大豆畑の雑草拔きは、途中から雑草か大豆かわけがわからなくなり、正直、何本か大豆の茎を抜いてしまいました、大変申し訳ありませんでした。

今回のワークキャンプで改めて感じたことは、人間、好きな人のためならどんな苦難にも立ち向かっていけるということです。スタッフの安田さんを見ていて思ったのですが、彼は普段ほぼ仕事をしないようで、でもその安田さんが好きな人の前で、鶏糞かすを一輪車に乗せて何度も往復して、捨てる作業をやり続けました。愛の力は人間の限界を越えさせるのだと思った。来年もいろいろな人間模様が見られるワークキャンプになるかと思います。今から楽しみです、来年も頑張ります。

中一 田中泰世

ワークキャンプでの思い出

私は今年でワークキャンプに来たのは、5回目です。私がこのワークキャンプで印象的なことが3つありました。

1つ目は、にわとりの世話です、私は動物がとても苦手な人で小屋に入るのもいやでした。ですが今年はちょっと入ることができました。

2つ目は、鶏糞の作業です、最初はとても山のように鶏糞があったけど、みんなで声をかけあい、なんとかできました。とても達成感がありました。

3つ目は、草むしりです。2、3日目から草むしりをはじめました。私は、最初 自分より高い草が大量にあり、とてもできるか不安でした。ですがやりはじめると、なかなかぬけないものもありましたが、思ったより簡単にぬけました。けど心残りがあります、あとちょっとのところを全部ぬけるところで、終わってしまい、ちょっとくやしかったです。

私は来年も来る予定です、来年はもっとかつやくできるようにがんばりたいです。

小3 大原かいと

ワークキャンプに行く前はとても不安だった。自分はさぎょうするのがおそくて、体をうごかすことも苦手だったから半分たのしみ、半分不安だった。

いきのいどうでは、おもいにもつをもって歩いたりしたから、へトへトだった。

ついて一日から本かくなさぎょうがはじまった。ニワトリのせわでは、生き物が苦手だったから、さいしょはこわかった。

大豆ばたけの草むしりはとてもつかれた。力仕事が悪手だったから、つかれたけれど、いた人とペアをくんでなんとかゴールまでいけた。ペンキぬりは、ちょっとからだをうごかすだけだったから、とてもラクだったけど、きつかったのがはしごにのってこわかった。

ほかには、新しい友だちが写真をとったりして、とてもたのしい思い出ができた、また来たいです。

小3 細川由和

今日はじめてたまごとりをやりました。ニワトリはオスやメスがいて、次にエサやりをやりました、えさやりはとてもたのしかったんだけど、エサが長靴におちたのでニワトリがつつついてきました。

次にザッソウとペンキ、ふたてにわかれしました。4人はペンキ、ほかはザッソウにいきました。ザッソウはねっこからぬいて、ねっこのちかくに手をにぎります。ペンキはぬりやすれのないようにぬって、はじっこからぬります。そして、わたしがいちばんペンキぬりでびっくりしたのが、たかいところもぬることで、さいしょはこわくてたまらなかつたけど、あんがいこわくありません。でもじっさいのぼってみるとこわかつたけど、ゆうきをふりしぼってぬりました。かいだんをぬるのは、一日かかりました。

次にけいふんです。けいふんはくさかつたけど、がんばってやりました。けいふんはとてもむずかしかつたけど、とてもたのしかったです。

親隣館職員 綱川紗梨奈

初めてワークキャンプというものに参加しました。懲役 300 年ときいていたので、ものすごく行きたくありませんでした。

仕事内容は、鶏のエサやり、水場清掃、鶏糞運びなど今までやったことのない内容で、ますますやる気は出ませんでした。しかし、やってみると意外に面白く、楽しい内容でした。

卵取りは一日目、二日目は、ほとんど未来ちゃんまかせでしたが、三日目にして、一人でも 10 個以上とることが出来、ものすごい達成感を味わうことができました。😊

キャンプ中に一番感動したのは、夜の星空です。一日目、二日目は星を見ることが出来なかったのですが、最終日に天然のプラネタリウムと言っていいほどの美しい星空を見ることが出来て本当に良かったです。一つ残念なことと言えば、星空を写真に収めることが出来なかったことです。また来年来る機会があったら、ぜひもう一度みたいです。

お泊まり初めてにも拘わらず、未来ちゃん、だいちゃん、ゆうちゃん、はるちゃん、かいとくん、妹と私と仲良くしてくれて本当にありがとうございました。！！

山下さんに「サリー」って呼んでもらえたのがうれしかったです。(*^o^*)

ひろみさんとの恋バナはさいこうでした。😊♡♡♡

待ちわびるということ

親隣館 渡邊義也

「あっ、やっと来た！」到着した僕らの顔を見るなり、作業所の皆さんは出会うたびにその言葉を口にした。記念館や雲柱社のメンバーと入れ替わったところなのに…。

今年のワークキャップは、何かの手違いで、日程を変更せざるを得なかった。というか、記念館本館は、日程を変更せず、雲柱社に融通を利かせてもらって、当初の日程でワークキャンプを行った。親隣館の僕らは、あさひ福祉作業所が困ってしまうので、日程を変更し、15日～18日（土）に移動した。参加者から見ればいい迷惑だろうが、それでも何とか都合つけ、今年も無事「あさひ」にやってくる事ができたのだ。

そして、参加人数はすくないけれど、みんな覚悟の上だし、働く気満々であったら、予想以上の結果につながったように思う。記念館チームがどこまでやったのかはわからないが、残された作業は少なくはなかった。日常の作業（エサやり・卵取り・緑餌作業等）の他に、ペンキ塗りの残り作業、大豆畑の除草作業、鶏糞の片付け作業などがあったが、小人数の割には、上出来だったと思う。特に非常階段のペンキ塗りは、二日目は降ったりやんだりだったので、作業に取り掛かれず。三日目の一日をかけての作業となった。志願して出た小学生たちは、楽しそうに作業していたが、僕の長靴にペンキを塗ってみたり、下り通路に残してある天板をわざと塗りつぶし、僕の靴下をペンキだらけにしてくれたりしたので、僕の作業ははかどらなかつた。

「寮生さんたちが楽しみにしている」ということで、三日目には例年通り、親睦のバーベキュー大会を行った。参加人数が少ないので、基本的に資本金も少なく、例年のように豪勢にはいかなかったが、それでもみんな楽しそうだった。僕の担当は、相も変わらず焼きおにぎり。時間もかかり、火加減も難しいが、それでも「焼きおにぎり、まだ？」と声がかかるとうれしい。何よりも嬉しかったのは、最後まで焼きあがらず、残っていた焼きおにぎりを「後で食べたいから、持って行っていい？」と何人かに聞かれ、「いいよ！」と言うとそれぞれが大事そうに手に包むようにして持ち帰ってくれたのが、印象的であった。

以前、「他のキャンプと距離感が違う」と言われたことを書いた。最初それは、僕ら側のスタンスの違いなのかなあと思っていたが、それはどうやら、寮生さんたちの側にもあるのだと今回のキャンプで確信するに至った。毎年同じ顔がある、毎年同じ事をする、毎年寮生さんたちと同じ位置にいる。そんなことが距離感を縮めているのだろう。

「あっ、やっと来た！と言ったときの嬉しそうな顔、焼きおにぎりを手にしたときの満足そうな顔、「また、来てね！」といった時の少し寂しそうな顔、必ず来ることが分かっているからこそ、待ちわびているのだと気が付かされたような気がする。



親隣館

慶應義塾大学 ライチウス会ワークキャンプ

9月18日～21日

あさひのみなさんへ

9月18日からの四日間、大変お世話になりました。僕は昨年も参加させていただいたので、2回目のあさひワークキャンプでした。ことしもあさひのみなさんにお会いでき、とてもうれしかったです。去年は仕事や環境に慣れるのに精一杯だったのですが、今年はよりみなさんと仲良くなるのが出来たのではないかと思います。本当にありがとうございました。

四日間大変お世話になりました。はじめてこのワークに参加させていただきましたが、とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。はじめはどういった作業をすればよいのか分からないことが多かったのですが、あさひの皆さんの優しい教えですぐに覚えることが出来ました。あさひの皆さんはとてもにこやかで明るい人達だなと感じ、一緒にいた僕たちまで楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございました。また来年も機会があればぜひ皆さんにお会いしたいです。いつまでも元気で笑顔あふれる、あさひの皆さんでいて下さい。

この四日間本当にありがとうございました。

四日間ありがとうございました。この度は、ワークキャンプに参加させていただき、皆さんと楽しい時間を過ごすことが出来、とても嬉しく思います。

鶏のお世話や田んぼ作業など普段は出来ないような体験の数々は、私にとって大変貴重な経験となりました。慣れない作業で皆さんにご迷惑おかけしたかと思いますが、少しでもお力添えできたのであれば、嬉しい限りでございます。来年は一回り成長したメンバーと新たに加わるフレッシュな一年生を携えて、またあさひワークキャンプに参加させていただければ、と思っております。まだまだ未熟な私達ですが、またみなさんと過ごせる日が来ることに楽しみにしております。

ライチウス会とは

慶應大学文化団体連盟（文連）の加盟団体として、1930年（昭和5年）4月に発足しました。会の名称である「ライチウス」(Raitius)はフィンランド語で、英語の Fresh または Pureなどを意味し、清らかな水、酪酊しない飲みもののように、すべて清く、正しく、明るいことを表す言葉です。奉仕活動（現在のボランティア活動）がライチウス会の主たる活動となり、活動場所や活動内容等が変化しつつも継続され今日に至っています。



四日間、たくさんの楽しみや喜びをありがとうございました。日常では体験できない出来事（鶏卵の取り出し）などなど…は、食のありがたみを再確認させてくれるものばかりでした。まだまだ自分には、知らない世界（体験）があると思います。それらをこれからの人生で一度は手につけようと思いました。

この度はすてきな体験をさせていただいて、ありがとうございました！ニワトリの世話や田んぼでの作業は私にとって慣れないもので難しく、なかなか自分は使えないヤツだなあと我ながら思ってしまいましたが、あさひの皆さんの丁寧な教えに救われてなんとか三日間頑張ることが出来たのかなと思います。本当に感謝です！！

四日間大変お世話になりました。訪問する前はどんな生活になるのか全く想像出来ず、不安でいっぱいでした。しかしあさひの皆様が気さくに沢山話しかけて下さりとても楽しく、また、今までに体験したことのない作業を経験することが出来、充実した四日間となりました。鶏の世話や田んぼのひえとりなど一つ一つの作業を細かく教えていただき、自分の生活を自分で作り上げることの難しさも感じる事が出来ました。それと同時に改めて周りの人への感謝の気持ちでいっぱいです。これも全てあさひの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。あさひの皆様が自分の得意なことを生かしながらお互いを助け合う姿を見て、個性とは人生を輝かせるためにあるのだと思いました。これから寒くなると思うのでお身体には気をつけてお過ごし下さい。

短い間ですが、大変お世話になりました。有意義な体験を色々させていただき感謝しています。最初はどうなるかと思いましたが、職員・スタッフの皆様が優しく話しかけて下さったおかげで、楽しく過ごし事が出来ました。交流会も話題が途切れることなく、楽しく過ごすことができました。また、普段の生活では体験することが難しい、養鶏に関わる作業、稲のヒエ取り、鶏小屋作りなど様々な体験ができました。どれもとても新鮮な経験で、これからの人生において貴重な経験になると思います。長くなりましたが、皆様の温かいおもてなしと貴重な経験をさせていただいたことに感謝します。四日間、ほんとうにありがとうございました。皆様のご発展をお祈り申し上げます。 平成30年9月21日

この度はとても素敵な体験をさせていただき、ありがとうございました。ニワトリの卵の回収や田んぼのヒエ取りなど普段できないような経験ができ、刺激的でした。施設の方々の温かい人柄もあり、とても楽しい時間を過ごすことができました。僕は特に笹生さんと今井さんと多く関わらせていただきました。笹生さんは明るくおしゃべりが好きな方で、話していて元気をもらえました。鉄道や車の話をよくしていただいて、お好きな気持ちがよく伝わってきました。今井さんはあまりおしゃべりをされる方ではありませんでしたが、いつもニコニコされていて、一緒に仕事をするときも嫌な顔一つせずニコニコしながらやられていたので、僕もそのおかげで楽しく仕事ことができました。今回は本当にありがとうございました。僕は今年生なので機会があれば来年も是非行きたいです。



三日間お世話になりました！

私は一日遅れのスタートとなってしまいましたが、その中でもここでしか出来ないような貴重な体験をたくさんさせて頂くことができました。初めて鶏舎に入った時は、大量の取りに圧倒されていましたが、産みたてのたまごを回収したり、エサやりをしているうちに自然と慣れていきました。とれたての卵を自炊で使用するのも新鮮でした。また、田んぼでのヒエ取りの作業も大勢でも大変で、お米のありがたみを実感できました。

あさひの方々とは交流会だけでなく休憩時間や作業時間にもお話しができて楽しかったです。この三日間は、とても充実した時間を過ごすことができ、参加してよかったなと思いました、本当にありがとうございました。！！

四日間本当にお世話になりました。普段なかなか経験できないことを体験でき、すごく充実した日々でした。交流会では、たくさんの方が昔のあさひがどんなだったのか、今度の旅行でどこに行くのかなど話しかけて下さってとても楽しい時間が過ごせました。

養鶏場では、温かい卵を回収して、掃除して、エサをやるという初めての経験を通して、食べ物のありがたみを感じることができました。鶏小屋作りも一つ一つ地道な作業を積み重ねていくが大変ではありましたが、皆で作業することで乗り越えることができました。

私はライチウス会として、また看護学生として、施設の方との触れ合いの中で学ぶ部分がたくさんありました。本当に貴重な時間をありがとうございました！

渡したちがそちらでお世話になってから少し経ちましたが、いかがお過ごしでしょうか。

作業の際、時間に間に合わないことが多々あり、ご迷惑をおかけしました。本当に申し訳ございません。私はⅡ年目の参加でしたが、昨年とは違った作業をしたり、また建物自体も増えたりと、新鮮な気持ちで四日間を過ごせました来年以降もまた変化があるかと思うと、とても楽しみです。

一方で、あさひの方は相変わらず明るく、とても気さくに話しかけてもらいました。きっとこれは変わらず続いていくのだらうと思いました。個人的には、去年参加した私のことを一年経っても覚えてくれていたということが、とても嬉しかったです。

今年もまた良い思い出が出来たのも、皆様のおかげです。本当にありがとうございました。また来年も参加したいと思いますので、どうかそれまで皆様元気でお待ちしております。

9月6日から9日までの四日間大変お世話になりました。総じて言えば思うことは唯一つ、「とても楽しかった」ということです。施設スタッフの尾島さん、牧本さん、島さんの御協力のもと鶏舎での作業や田んぼでの作業を行うことができました。それぞれが私にとって初めての経験であり、御協力なくしては一生する機会のなかったであろう事であったように思います。その他、休憩時のお菓子を作って下さった女性スタッフの方々など、あさひ作業場に関わっておられる全ての方々に感謝申し上げたいと思います。また、直接私たちと関わって下さった施設利用者の方々にも心から感謝しています。市村さん、岩崎さん、笹生さん、保田真木さん、健ちゃん、徹ちゃん、由美さん、好子さん、恵美さん、みなさんのお陰で四日間を充実して楽しく過ごすことができました。歌を一緒に歌ったり、ゲームの話をしたことは良い思い出です。また来年もお会いできる日を楽しみにしております。

最後になりますが、みなさんお元気でお待ちしております。

四日間本当にお世話になりました！！にわとり小屋に初めて入った時にはあまりにもにわとりが沢山いたので圧倒されましたが、よく見るとにわたりの一匹一匹がとっても可愛らしくて大変癒やされました。また、にわとり小屋に入るのが初めてで、何をすれいいか分からない私にあさひの皆様が丁寧に仕事を教えて下さったお陰で、エサやりも卵取りも手順、をすぐに覚えることができました。そして普段当たり前のように食べている玉子や鶏肉が作られている様子を直接見たり、親鳥が大事に温めた玉子のぬくもりを感じた時、命の尊さ感じたような気がします。

ヒエ取りも最初離れなくて大変でしたが、あさひの方々がコツ等を分かりやすく教えて下さったので段々ヒエ取りのスピードが上がってきて、自らのスキルの向上を感じました。

この四日間のあさひワークキャンプで、私は普段では絶対に得られないような貴重で楽しい、かけがえのない経験をすることができました。また、あさひの皆様と沢山お話しできてとても嬉しかったですし幸せでした。四日間本当にお疲れ様でした。また、一年後にお会いできるのを楽しみにしています。

お久しぶりです、この前数日間お邪魔させていただいた井澤なのはです。お元気ですか？あさひで過ごさせていただいた三日間は、とても貴重な時間でした。普段過ごしている環境とは違い、緑に囲まれ、にわとりと触れあうといった自然が近くにある環境で、心がすっと洗われたような気がします。

あさひのみなさんとは、一緒に作業をさせていただいたり、休憩中にお話ししたりと、色々な面で関わらせていただき、とても楽しかったです。みなさんのお話で、今まで知らなかったことを教えていただいたり、昔の歌やゲームなどを教えていただいたりしてとても有意義でした。交流会では、たくさんお話ししながら夕食をいただき、写真も撮ることができましたね。みなさんの日常に参加させてもらって、落ち着いた気持ちになりました。

みなさんと過ごせた三日間は、私にとってこれから先も大切な思い出になると思います。本当にありがとうございました。また来年参加させていただけたらと思います。

みなさんお元気でお過ごし下さい。

四日間、大変お世話になりました。にわたりの餌やりや卵の回収など、普段は体験することができないような、貴重な経験をさせていただきました。にわとり小屋に入った瞬間は、たくさんのにわとりで圧倒されましたが、慣れると段々にわとりも可愛らしく思えてきました。ヒエを田んぼから引き抜く時に2回も転んでしまい、泥だらけになりました。それも、今になってはいい思い出です。

二日目の交流会の際には、美味しいハンバーグとおそばを食べながら、色々な方とお話しさせていただきました。皆さんとても楽しそうにお話しになるので、こちらも楽しい時を過ごすことができました。また、ワークキャンプでは毎食自炊なので、自分たちで献立を考えたり、調理したりして、食事を作ること大変さ、作ってくれる親の有り難みがよくわかりました。ありがとうございました、来年も是非お訪ねしたいと思います。

私は今回初めての参加でしたので、最初は不安でいっぱいでした。しかし、皆様が温かく迎え入れて下さり、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。そして、行った作業はどれも私が初めて経験するものであり、新鮮で楽しかったです。また、みなさま全員とても個性的で優しく、楽しくお話しすることが出来て良かったです。そしてとても積極的だったので、シャイな私でも和やかに交流することができました。もしもまた日程が合えば、また来年も参加させていただきたいと思います、本当にお世話になりました、ありがとうございました。

ラルシュ・リトリート(ラルシュ・黙想会)に行ってきました

島 武代

9月21日から24日まで聖心丹沢学舎で祈りのひとときを過しました
テレサホームから、6名のメンバーとボランティアの山内さんと島の8名が参加。
高森草庵の渡辺神父様の運転と島の運転とで分乗し、5時間かけ山の中の学舎に着きました

ラルシュ・リトリートのプログラムは、講師の講話(1、何を探していますか? 2、コミュニティー、成熟への道 3、成熟の道で大切なこと 4、熟した実り、豊かに実ること 5、洗足、お互いに仕えあうことへの招き 6、私たちの日常生活でおこる復活の証し)、お祈り、なかまのアートワーク、なかまと散歩、等がゆったりした時間で進んでいきます。



メンバーも私たちも、日常から離れ、黙想を心がけながら最小限の会話の
中で、お互いの心を深めていく最高の場になっています。無論テレビ・ラジオ・ゲームはありません

ラルシュ かなの家 なかまの
若本政一さん作

ラルシュ・ホームは知的障がいを持つ人々と彼らの生活を支える人々が共同生活をするグループホームです。ラルシュとはフランス語で箱舟の意味です。ラルシュ・ホームは、ジャン・バニエ氏(1928年カナダで生誕)により、フランスのトロローで創設されて世界に広がり、現在125ヶ所以上あります。日本ではラルシュ・かなの家(静岡県静岡市)があります。



かなの家の仲間と！神父様・スタッフと共に

ラルシュにとって大切な祈りのひととき

ジャン・バニエ氏より

障がいをもつ仲間との生活は、たやすいことではありません。とりわけ仲間との心からの出会いを求めるなら、忍耐強くあることが必要です。私たちは、いとも簡単にイライラしてしまったり、何かを切り捨ててしまったりして、仲間との本当の出会いに背を向けてしまうことがあります。そこで自分の心を落ち着かせ、静かに見つめる時間をとることが大切になってきます。そうしないと、知らず知らずに自分の感情に振り回されがちになります。静かな時の中で、自分の行動や思いを振り返り、良かったこと足りなかったことを眺め、自分と向き合い、自分にとって大切なこと、本質的なことを何かをみつめるようにします。このような静かな時が「リトリート(黙想会)」であり、クリスチャンにとっては、神のみに自分の身をおく祈りの時です。ラルシュのリトリートは、静けさの中に自分の身を置いて、ラルシュが大切にしていることを見つめる時です。それは、ラルシュは仲間たちのために、ただ何かをしてあげるためにあるのではなく、仲間たちと共に生きていく生活である、ということです。リトリートは、ラルシュのまことの深い意味を再び見出す時であり、自分自身も浄化されるようお願いをもって、神の前に身を置く時です。

☆賛助会員会費☆ (平成30年7月23日以降)

浅川 秀治・伊藤 寛・岩永 住幸/幸子・今関 公雄・植月 躋・大内 満男・尾崎よね子
木村 輝三・木村 美三男・熊本 一美・下條 順子・小林 久子・小松 とも代
小林 宏明・小池ゆり・佐々木 憲二・清水 波子・清水 三千夫・島 とめ子/勝美
下地 峰子・玉谷 真吾・田中 修一・千葉 信男・殿谷 悦子・中田 文雄・永井 和恵
内藤 武・西勝 恵子・布川 博資・端山 信枝・馬場 春夫・服部 栄・原 健二
原藤 進/憲子・古澤 初美・水谷 幸子・南 久弥子・宮本 悦子・宮崎 智則
向山 裕子・向山 三樹・山本 英二・吉村 トク

☆寄付金☆ (平成30年4月1日～平成30年9月30日)

岩永 住幸/幸子・今関 公雄・小林 久子・小柳 保証・菅野 俊美・下地 峰子
田中 修一・長尾 邦弘/愛子・西勝 恵子・布川 博資・長谷川 和子

☆多機能型事業所“ぶーこっこ”支援寄付金のご報告☆

(平成30年7月18日以降)

浅川 秀治・石垣 悦子・岩永 住幸/幸子・川越 厚・清里自動車・島 真由美
下地 峰子・田中 修一・西勝 恵子・原 健二・原藤 進/憲子



秋雨前線のつかの間の晴、甘い香りのするブッドレアに数匹のちょうが蜜を吸っていました。

スタッフ 樋口 里佳子 撮影

★第18回あさひ交流会(餅つき)のお知らせ★

日時：平成30年12月8日(土)

午前10時～午後2時

会場：多機能型事業所“ぶーこっこ”

山梨県北杜市高根町村山北割 86-63



特定非営利活動法人あさひ

多機能型事業所“ぶーこっこ”&グループホーム“あさひテレサホーム”

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

<http://www.asahi-teresa.com>

TEL 0551-47-3950

FAX 0551-30-4044

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費(5000円)&寄付金等：特定非営利活動法人あさひ

★郵便局振込★ 00220-1-98254

★他銀行より振込★ 当座 0二九 0098254

編集者：中山正博